

## 「全鍍連」2023年10月号 巻頭言

全鍍連 環境担当副会長 清川 肇 (清川メッキ工業(株) 代表取締役社長)

「巻頭言」



環境担当副会長を仰せつかっております、福井県めっき工業組合理事長の清川です。今期より福井の組合名をこの名称に変更いたしました。昨年までは福井県表面処理工業組合という名称でしたが、理事の中から「表面処理では何の組合か分からない」などの意見があり、新たな名称に変更することと致しました。組合名変更にあたり、3つの「鍍金」「メッキ」「めっき」表記のどれを採用するのか大変悩みました。

「鍍金」は全国鍍金工業組合連合会にも使われており、全国 23 組合名称では「鍍金 17」「表面処理 3」「メッキ 2」「めっき 1」と「鍍金」が断トツに多く使われています。この「鍍金」が正しい表記方法かという実はそうとも言えません。国の定めた常用漢字表には、「鍍」という字は記載されていませんし、「金」という字も「き」という読み方を認めていません。

「鍍金」「メッキ」「めっき」を某検索エンジンで調べてみると「鍍金 4,470,000 件」「メッキ 22,200,000 件」「めっき 7,110,000 件」とカタカナで「メッキ」と表記するケースが多く、外来語と思われがちですが、実は純粋な日本語で、塗金(と きん) → 滅金(めつきん) → 鍍金(めつき) → メッキと表記が変化してきました。さらに、常用漢字から「鍍」字が外れたことから、カナ文字の「メッキ」が多く使われるようになりました。新聞業界では「メッキ」表記が採用されています。現在では、JIS 規格にめっきの規格ができた際に全鍍連、表面技術協会ともに「めっき」を推奨しています。このような理由から推奨されている「めっき」を採用することに致しました。

余談ですが、公用文で「めっき」ではなく「めつき」と表記しているものがあります。例に挙げると技能検定の職種名は「めつき科」となっています。昔の日本語には小文字の促音「っ」や拗音「ゃ、ゅ、ょ」はなく、一般化したのは、第二次世界大戦以降です。それまでは直音の大きな「つ」や「ゃ、ゅ、ょ」で表記されていました。現代にも昔の名残があるのに驚かれます。

環境委員会では、昨年度から新しく優良環境事業所認定制度の見直しを行い、初年度は 88 事業所を優良事業所として認定致しました。各組合員企業の社会的価値を高めることに繋がればと期待しています。

